



響友

江の川高等学校
吹奏楽部 会報

2006. 7. 1
Vol. 23

Gonokawa High School Brass Band 西部地区吹奏楽祭に出場しました!

■ 日 時 6月5日(日) 10:00~16:30

■ 会 場 石央文化ホール

■ 演奏曲 ◎「スペイン狂詩曲」より IV 祭り

作曲: M. ラヴェル 編曲: 八田泰一

◎「ディスコパーティー」

■ ちなみに・・・



「ピレネーの向こうはアフリカである」・・・フランス・ドイツ等ヨーロッパ中枢の国々でよく耳にするこの言葉には自己優越感だけでなく、エキゾティズムによる一抹の羨望のまなざしが窺える。確かに、半島の付け根には3000m級の峰を頂くピレネー山脈が立ちはだかり、フランスから一線を画しているのに反して、アフリカは僅か14km幅のジブラルタル海峡によって隔てられているに過ぎない。南北をアフリカとヨーロッパ、東西を地中海と大西洋に囲まれたイベリア半島は、それぞれの方角から人間、文化の交差点となってきた。先史時代には、アフリカからイベルロ族、ピレネー山脈を越えてケルト族が到来した。続いてフェニキア人、ギリシア人といった地中海民族による植民市建設後、カルタゴ人、ローマ人の征服者が渡来した。ローマ人の半島征服は紀元前19年に完成し、700年間の支配が始まる。「イベリア」の名は、古代ギリシア人が半島先住民を「イベレス」と呼んだ事に由来し、ローマ人はこの地をフェニキア語に由来するといわれる「ヒスパニア」と称した。これは「ウサギが多い国」という意味だといわれている。この「ヒスパニア」から「エスパーニャ」「イスパニア」「スペイン」等と呼ばれるようになったが、当時のローマ人達は属州としたイベリア半島全体を「ヒスパニア」と名付けたのであって、現在の「スペイン」に限って使っていたのではない。イベリアを特徴付けているのは、何といても711年に始まったイスラム教徒の半島侵入であり、イスラム支配地域は「アル・アandalus」と呼ばれた。キリスト教徒による国土回復運動(レコンキスタ)は約800年の年月を要して、1492年のグラナダ王国崩壊によって漸く成し遂げられる。同年には、コロンブスがアメリカに到達し、6年後のヴァスコ・ダ・ガマによるインド到達と並んで、その後の大航海時代に於けるスペイン・ポルトガルのイベリア両王国優勢を決定的にした。これは、レコンキスタのエネルギーが新大陸へのコンキスタ(征服)に向けられた為と思われる。しかし、内政的には長年にわたる異教徒支配への反動から、反イスラム、反ユダヤ、反宗教改革の風潮が強く、異端審問制等による「キリスト教的体制」に固執し続ける。16、17世紀のハプスブルク王朝、18世紀のブルボン王朝を経てモ宗教的寛容さは根付かず、19世紀から20世紀にかけて、宗教と政治の分離を実現するべく混乱を引き起こした。多くの紆余曲折を経た歴史と民族の流れは、ヨーロッパの中でも特異性のある文化を生み出し、他の国の人々から好奇の目で見られるようになったのである。ラヴェルの母はスペインのバスク地方の出身で、ラヴェルはピレネー山脈の北側、サン・ジャン・ドゥ・ルージュの隣りにある小さな漁村シブールで生まれた。バスク地方とはイベリア半島北部、ピレネー山脈西端のフランス、スペイン国境に跨って広がるバスク語を話す地域を示す。この地方は、日本の四国よりやや広く、約300万人の人が住む。バスク人については、他のヨーロッパ諸民族とは明らかに異なる独自性があり、謎に包まれている事柄が多い。例えば、外見上はスペイン人、フランス人と大きな相違は見られないが、血液型の分布を調べるとB型の割合が2%と極端に低く、Rhマイナスは30%と非常に高い。この特殊な現象が何に起因するのかわ明されて居らず、バスク人の起源についても不明である。又、彼らが使うバスク語は、言語構造上、インド・ヨーロッパ諸語の系統に全く当てはまらない。この不思議な血が流れるラヴェルは、バスク語も解し、生後間もなく離れたシブールの漁村には成人後しばしば訪れて、故郷の村をこよなく愛した。現在ではサン・ジャン・ドゥ・ルージュとシブールでラヴェル音楽祭が開かれている。スペイン狂詩曲はモーリス・ラヴェルの最初の本格的なオーケストラ曲で1907年に作曲された。この年にはオペラ《スペインの時》も作曲されている。1908年3月15日にコロンスの指揮で初演が行なわれ、大変な好評を得て《マラゲーニャ》は直ちにアンコールされた。全体は次の4曲で構成されている。

1. 夜への前奏曲 反復される動機に叙情的な主題が重なり、曲の終わり近くには2本のクラリネットによるカデンツァと2本のバズーンによるカデンツァが聴かれる。
2. マラゲーニャ リズムックで定型化された伴奏をバックに即興的な旋律が歌われるマラガ地方の民謡に続いて、憂愁なメロディーが現れ、夜の動機とともに突如消え去る。
3. ハバネラ この曲のみ 1895年にピアノ2台用に書かれた作品のオーケストラ編曲である。物憂いリズムと旋律がデリケートな色彩で表現される。
4. 祭り (フィエスタ) 生き生きと輝く賑わいに挟まれてノスタルジックな叙情が響くラプソディックな3部形式の曲。

Photography



To Be Continued ..